

令和5年度 授業改善推進プラン 英語科 (大森第三中学校)

昨年度の授業改善推進プランの検証

★取り組みにおける成果と課題

- ・外国人講師との授業で、英語に対する意欲やコミュニケーション能力の伸長につながった。
- ・単語テスト、単元テスト、定期考査の振り返りを行い、基礎的な力を定着させるための工夫ができた。
- ・毎日の宿題や家庭学習を習慣化させる工夫が必要である。
- ・基礎学力の低い生徒への個別指導が課題である。

英語の内容別結果の分析 (区・学習効果測定)

内容	1年生	2年生	3年生
聞くこと	○校内平均正答率は、目標値を7.4ポイント上回っている。ただ、区の平均値は1.5ポイント下回っている。 ○リスニング力はおおむね良好であるが、日常会話で使用する表現をさらに定着する必要がある。	○校内平均正答率は、目標値を6.2ポイント上回っている。また区の平均値は2.6ポイント下回っている。 ○リスニング力はおおむね良好であるが、様々な場面を想定した英文の聞き取り力を定着する必要がある。	○校内平均正答率は目標値を0.7ポイント上回っている。しかし、区の平均値を3.9ポイント下回っている。 ○聞き取れた動詞の意味だけで答えを選択している傾向にあるので、文脈や助動詞の意味を考えて判断する必要がある。
読むこと	○校内平均正答率は、目標値を9.5ポイント上回っている。区の平均値に対しても、0.1ポイント上回っている。 ○簡単で短い文章を理解するため、授業や家庭学習でさらなる定着を図る必要がある。 ○英文を音読することに前向きな生徒が多く、今後も継続的な音読活動が必要である。	○校内平均正答率は、目標値を1.2ポイント下回っている。区の平均値は6.6ポイント下回っている。 ○基本的な文法知識や語彙力をつけたり、日頃の授業で長文読解を扱い、内容や要点の把握、質問に英語で答えるなど定期的な練習が必要である。	○校内平均正答率は、目標値を6.8ポイント上回っている。また区の平均値を1.6ポイント上回っている。 ○長文や対話文などの読み取りはよくできていたが、さらに読解力を向上させるために、動名詞や助動詞、接続詞などの基本的な語形・語法を授業や家庭学習で定期的に練習する機会を作っていく必要がある。
書くこと	○校内平均正答率は、目標値を6.7ポイント上回っているが、区の平均値においては1.3ポイント下回っている。 ○英作文の無回答率が低かったことで、書くことへの前向きな姿勢が見られる。しかし、まとまりのある英文を数行書くことに苦手意識をもった生徒が少なくない。今後の基礎練習の積み重ねが必要である。	○校内平均正答率は、目標値を4.1ポイント上回っている。区の平均値は1.7ポイント下回っている。 ○特に単語の並べかえによる英作文を正しく書いたり、自分の意見を述べる3文以上の英作文を書くことがよくできていた。しかし、場面に応じて考える英作文(数を答えたり、場所を答える)が今後の課題である。	○校内平均正答率は、目標値を8.0ポイント上回っている。しかし区の平均値を0.4ポイント下回っている。 ○対話の流れに合った英文を書くことはよくできていた。しかし、英文を正しい語順に並べかえて書くことや、自分のしたいことについて、具体的な説明や理由を付けて書くことが今年度の課題である。

英語の観点別結果の分析 (区・学習効果測定)

観点	1年生	2年生	3年生
知識・技能	○校内平均正答率は目標値を10.3ポイント上回っているが、区の平均値よりも0.2ポイント下回っている。 ○基本的な文の語順や表現の定着が必要である。 ○既習内容の反復学習が求められる。 ○日常会話や対話文に慣れ、何が問われているのか読み解く力をつけることが課題である。	○校内平均正答率は、目標値を3.4ポイント上回っている。しかし、区の平均値を3ポイント下回っている。 ○対話文を読み、正しい語句や語法を書くこと、所有代名詞の形や一般動詞の過去の疑問文に関する語形・語法を復習し、定着を図る必要がある。しかし、文の語順を理解し、正確に答える問題や対話の流れや資料から問われている内容を理解することはよくできていた。	○校内平均正答率は、目標値を4ポイント上回っている。しかし区の平均値を1.2ポイント下回っている。 ○過去進行形や比較表現に関する語形・語法はよく理解していた。しかし、助動詞や接続詞を中心に、基本的な語彙・文法を復習し、さらなる語形・語法の定着を図る必要がある。
思考・判断・表現	○校内平均正答率は、目標値を3.3ポイント上回っているが、区の平均値よりも2ポイント下回っている。 ○語群などを参考にして、自分のことを表現する英文を書くことがよくできていた。しかし、英文を読んで、必要な情報を読み取ることが課題である。教科書の本文を通して、簡単な要約をするなどの活動を継続的に行う必要がある。	○校内平均正答率は、目標値と同じであった。また、区の平均値を、6.3ポイント下回っており、全国平均値も6.7ポイント下回っている。 ○自分の得意なことについて、まとまった内容で説明する文を書き表すことがよくできていた。しかし、校内テレビ放送での話から要点をとらえたり、そこから感想を述べることが課題である。	○校内平均正答率は、目標値を8.4ポイント上回っている。また区の平均値を0.7ポイント上回っている。 ○場面に応じて相手に伝えたり、要点を捉えて相手の意向に適切に応じて英文を書くことはよくできていた。しかし、英文を読んだり聞いたりして、資料や絵から文脈に応じた内容を判断することに課題がある。
主体的に学習に取り組む態度	○校内平均正答率は、目標値を0.9ポイント上回っているが、区の平均値においては1.8ポイント下回っている。 ○英語に対する関心は高く、コミュニケーションへの関心はおおむね良好である。	○校内平均正答率は、目標値を0.8ポイント下回っている。また、区の平均値を、0.5ポイント上回っているが、全国平均値を5.6ポイント下回っている。 ○目標値よりは下回ってしまったが、英語を意欲的に聞いたり、書こうとしており、コミュニケーションへの関心は良好である。	○校内平均正答率は、目標値を9ポイント上回っている。また区の平均値を0.6ポイント上回っている。 ○英語を意欲的に聞いたり、書こうとしたり、コミュニケーションへの関心は良好である。

英語の課題と具体的な授業の改善策

学年	課題	具体的な授業改善策
1年	<p>○既習事項を使って、まとまりのある英文を書くことに課題がある。自分の考えを効果的に伝える表現の定着を図る必要がある。定期的なフィードバックをすることが求められる。</p> <p>○難易度が増していく語彙や文法項目を、スムーズに定着させていけるよう確認テストなどの必要がある。</p> <p>○基礎学力の定着が課題であり、授業で繰り返し既習事項を復習しながら進める必要がある。</p>	<p>○授業内でまとまりのある英文を書く活動を継続的に行う。書いた英文を定期的にチェックをし、フィードバックをしていく。</p> <p>○学習した新出単語や文法事項を繰り返し学習するよう、小テスト等を行い家庭学習の習慣付けを図る。</p> <p>○外国人講師を効果的に活用し、実際に会話する場面を多く設定する。それによりやる気の向上を図り、学習項目の定着につなげていく。</p>
2年	<p>○引き続きコミュニケーションへの意欲、関心を持続させながら、基礎基本の定着を図る工夫をする。</p> <p>○単語や1年の既習内容など基礎基本の定着を増やししながら、発展的な内容に取り組めるよう、授業の工夫をする。また、生徒一人一人に目標をもたせ、達成できたかを振り返りをさせていきたい。</p> <p>○内容別、観点別結果の分析から、対話の流れに合った英文を書くことと長文を読み、要点を捉え、必要な情報を読み取ること、さらには相手の意向に適切に応じる力をつけていく必要がある。</p>	<p>○コミュニケーションへの意欲、関心を持続させるため、ペアワークを行ったり、ALTとの会話を増やして学んだ語法を使う活動を取り入れる。</p> <p>○学習した新出単語や文法事項を使って、自ら英語を話したり、英文が書けるよう、授業内でスピーキングやライティングの時間を増やし、それらを適切に評価していく。</p> <p>○定期的に英語の長文を読み、それについて英語で自らの意見を言ったり、書いたりする活動を取り入れ、英語を使って自己表現ができるような授業を工夫していく。</p>
3年	<p>○内容別、観点別結果の分析から、リスニング力の向上、語形・語法の知識の定着、英文で表現する技能の習得が必要である。</p> <p>○表現は、場面に応じた英文を書くことはもちろん、自分の意見を既習事項を使って、まとまりのある文章として書いたり、言えたりすることが課題である。</p> <p>○英文を読んだり聞いたりするときに、資料や絵を通して考えたり、判断して文脈を理解する力をつけていくことも課題である。</p>	<p>○リスニング力向上のために、週に1・2回程度授業の最初にリスニング問題に取り組む時間を設定する。</p> <p>○語法・語形の知識の定着のために、単元ごとに小テストを実施する。また定期考査後に振り返りを行うことで、理解していることと理解できていないことを認識できるようにする。</p> <p>○帯活動として、ペアでQA活動を行い、自分の言いたいことを表現する活動を習慣化する。また、単元ごとにテーマを決め、自分の意見をまとめた英文で書く活動を取り入れていく。</p>